

平成28年度 事業報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

(T G I)



Tsukuba Global Innovation
Promotion Agency



一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構
平成 28 年度事業報告書 目次

1. 平成 28 年度の総括	2
2. 事業活動の内容	
(1) つくばを変える新しい産学官連携システムの構築を支援する事業	3
ア. プロジェクトの創出（特区プロジェクトの創出を含む。）	
イ. プラットフォーム（共創場）の構築	
ウ. つくばのイノベーションブランドの強化に向けた活動	
エ. つくばのイノベーションブランドを高める情報発信	
オ. つくばのイノベーションブランドを発信する各種イベントの開催・参加	
カ. 人材育成支援	
キ. つくばイノベーションプラザの効果的な活用について	
(2) 特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動	14
(3) 筑波研究学園都市長期ビジョン検討会議の運営	19
3. 会員の勧誘活動の推進	19
4. TGI の運営に関する事項	19

1. 平成28年度の総括

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構（以下「TGI」という。）は、平成26年3月に一般社団法人として設立以来、主に、つくば国際戦略総合特区（以下「つくば特区」という）に係るプロジェクト（以下「特区プロジェクト」という。）の支援を茨城県、つくば市、筑波大学との連携・協力のもと行ってきた。

総合特区制度については、平成28年4月に平成32年度までの制度延長が決定したことから、つくば特区としても平成32年度までの特区計画申請延長を申請することとし、TGIが調整役となり、茨城県とともに各特区プロジェクト関係者と協議を行い、プロジェクトの事業化・産業化の目標を明確化した新たな特区計画を作成した。当該計画については、9月に地域協議会で承認され、平成29年2月に特区期間延長申請を行い、3月に国の認定を受けた。

また、平成28年9月には、平成28年度文部科学省新規事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択され、これまでの特区プロジェクト運営支援業務に加え、つくば発のイノベーション創出を支援する組織として、「つくばイノベーション・エコシステム」の構築にまでその活動を拡大した。

つくばは、国の試験研究機関と筑波大学を中核として、高水準の研究と教育を行うための拠点を形成し、それにふさわしい環境を整備することを目的として建設された地域である。近年では、筑波研究学園都市に存在するイノベーションの原石である研究成果を磨き上げることによって、時代のニーズであるイノベーションの創出を達成することが期待されている。TGIでは、県、市、研究機関、関連インキュベーション施設と連携しながら、その役割を担っていきたいと考えている。

上記の実現に資するため、平成28年2月、TGIのオフィスを春日プラザ（旧つくば市中央消防署跡隣接）から、つくば市のご協力・ご支援で、TXつくば駅上のつくばイノベーションプラザ（旧つくばサイエンス・インフォメーションセンター）内に移転した。TGIへのアクセスの利便性が向上したことにより、つくばのイノベーション創出の場としてのTGIが更に機能する事が期待されている。

今後の課題としては、特区プロジェクトとエコシステムでの顕著な成功事例の創出である。加えて、会員への有意義な情報発信に注力し、会員増強に力を入れていく。

2. 事業活動の内容

(1) つくばを変える新しい産学官連携システムの構築を支援する事業

ア. プロジェクトの創出（特区プロジェクトの創出を含む。）

平成 28 年 9 月 28 日に TGI と茨城県で申請した拠点計画「つくばイノベーション・エコシステムの構築－医療・先進技術シーズを用いた超スマート社会の創成事業－」が、文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択されたことを受け、つくばを代表する革新的な起業家である山海嘉之氏（筑波大学大学院教授、サイバーダイナミクス株式会社 CEO）を「事業プロデューサー」に迎え、つくばの大学・研究機関の技術シーズを事業化させる取り組みを開始した。山海氏の下で事業化を担う専任のチームリーダー、スタッフを配し、山海氏のノウハウと経験を生かして事業化を推進していくこととなった。

上記プログラムには全国の 32 大学・機関から応募があった中から、TGI・茨城県の申請を含む 4 大学・機関の提案が採択された。この事業は今後、茨城県、つくば市、筑波大学、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、高エネルギー加速器研究機構、産業技術総合研究所、その他の機関と TGI が協力して実施することとなった。本事業の事務局を TGI が担当することとなった。

○事業化プロジェクト（2 件）の概要

①加齢に伴う眼疾患の早期発見・治療を実現する革新的な眼疾患検査法

筑波大学 安野嘉晃 講師、大鹿哲郎 教授

社会課題

視覚障害（社会損失 9 兆円）の原因となる主要 4 疾患（緑内障、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性、病的近視）は早期発見が難しく、重症化してから治療を始める患者が多い。また、診断方法は患者への負担が大きい（何種類もの検査が必要で、造影剤が使われるなど侵襲的）。

事業化を通じて社会に提供するサービス

- ・健康診断等で早期発見を実現、さらに確定検査での診断能力が向上する（従来は高次機能病院で精密検査を行わないと診断できなかった極早期の病変が、健康診断などのスクリーニングレベルで発見でき、異常を見逃す危険性が格段に減少）。
- ・造影剤投与なしの診断により患者負担を飛躍的に低減する。

本事業を支えるコア技術

筑波大独自の技術による新検査法（JMT: Jones matrix tomography）は、簡便・高速に生体の光特性情報のすべてを含んだジョーンズ行列トモグラフィーの撮影、画像処理を行うことで、これまでにない眼の血流、生体色素、生体線維分布のトモグラフィーを、人体に一切悪影響を与えずに提供する。

②世界中の眠りに悩む人々への睡眠計測が可能なウェアラブルデバイス

筑波大学 柳沢正史 教授

社会課題

わが国成人の5人に1人が睡眠問題で悩んでいるが、睡眠の客観的評価のためには病院に一晚入院してPSG検査を受け、その結果を専門技師がマニュアルで解析することが必要になる。そのため一般診療機関での不眠症の診断は、客観的評価なしに患者の主観的な訴えだけに基づいてなされており、正確な診断に基づく適切な治療につながっていない。

事業化を通じて社会に提供するサービス

家庭での計測が可能で専門技師による解析を要しない睡眠計測法を実現することにより、一般診療機関での睡眠の客観的評価に基づく睡眠障害の診断を可能にする。

⇒正確な診断に基づく適切な治療を実現。誤認により不眠を訴える患者は認知行動療法等に誘導して睡眠薬の適正使用を図り、うつ病や生活習慣病の誘因となる慢性不眠症を低減する。

本事業を支えるコア技術

- ・誰でも自ら簡便に装着できて睡眠を妨げない小型脳波計測デバイス（乾式または非接触式）（サイバニクス研究センター／サイバーダインのコア技術を活用）。
- ・専門技師のマニュアル解析と同等の精度で解析を行える完全自動睡眠脳波解析プログラム（計算科学研究センターと共同開発中）。

○基盤構築プロジェクト（次期事業化プロジェクト）の活動

① 案件の発掘

- ・文部科学省が筑波大学に委託した事業「Talent-Connect&アクセラレーションプログラム」の活用
- ・本事業の積極的な広報と事業化案件募集

② 事業化支援活動

- ・レドックスポリマーの概念実証支援
- ・市場調査、特許分析、事業化計画等の調査分析支援（試行的実施）

○キックオフイベントの開催

本事業の周知と連携の強化を図るためにキックオフイベントを開催した。

タイトル：「技術×事業化スキル」でイノベーションを巻き起こす—つくばの新しいカタチ—

日 時：平成 29 年 1 月 10 日

会 場：つくばイノベーションプラザ大会議室

基調講演：・イノベーション推進都市 TSUKUBA 「始動」

山海 嘉之 氏（事業プロデューサー）

・つくば発イノベーション・エコシステムへの期待

月岡 誠一 氏（ユニバーサルマテリアルズインキュベーター株式会社
代表取締役パートナー）

イ. プラットフォーム（共創場）の構築

○筑波大学つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）との連携

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」の申請段階の準備会合から連携し、シーズの評価に関する意見交換等を行った。また、T-CReDOで開催している以下のイベントの広報について、協力した。

- ・公開講座「起業家に聴く」シリーズ（10月6日、10月14日、10月26日）
- ・知財セミナー「大学研究者が知っておきたい医療分野の知的財産」（10月19日）

○つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催

つくば市内の大学・研究機関、企業、支援団体、茨城県およびつくば市で構成される「つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会」を定期的に開催し、各機関間の情報共有やイノベーション創出に向けた取組みに係る意見交換等を行い、連携強化を図った。また、3月には、つくば市と協力し、研究者等向けに「JST・NEDO合同事業説明会」を開催した。

【参加機関】

文部科学省研究交流センター、茨城県、つくば市、筑波大学、筑波技術大学、茨城大学、茨城県立医療大学、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業総合技術研究機構、農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター、高エネルギー加速器研究機構、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所、日本原子力研究開発機構、科学技術振興機構、TIA 運営最高会議事務局、常陽銀行、筑波銀行、三井住友銀行、つくば研究支援センター、茨城研究開発型企業交流協会



合同連絡会の様子



JST・NEDO 合同事業説明会

【平成 28 年度開催実績】

○第 7 回内容（平成 28 年 4 月 25 日）

- ・ TGI 平成 27 年度事業報告および平成 28 年度事業計画について
- ・ NARO 「食農ビジネス推進センター」について
- ・ TIA がつくばイノベーションプラザ（TIP）を利用してのイノベーション活動について 他

○第 8 回内容（平成 28 年 6 月 20 日）

- ・ 地域イノベーション・エコシステム形成プログラムへの応募について
- ・ グローバルニッチトップ企業育成事業について
- ・ JAXA 「宇宙航空産業の裾野拡大と新事業創出のための取組み」について
- ・ つくばの研究者ための研究開発関連制度勉強会について 他

○第 9 回内容（平成 28 年 9 月 23 日）

- ・ 文部科学省委託事業「経営者人材マッチング」について
- ・ 文部科学省新年度予算について
- ・ つくば地域活性化ファンドについて 他

○第 10 回内容（平成 28 年 12 月 6 日）

- ・ 日本原子力研究開発機構の取組みについて
- ・ 経済産業省関連施策について
- ・ つくばライフサイエンス推進協議会の取組みについて 他

○第 11 回内容（平成 29 年 3 月 7 日）

- ・ 研究者等向け「JST・NEDO 合同事業説明会」

○つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援

TGI、筑波大学、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構のネットワークを活用し、企業等の課題を解決する「つくばテクニカルコンシェルジュ（TTC）」活動による支援を進めたほか、今年度より新たに TTC の枠組み外の相談へ対応する「架け橋」活動を開始し、中小企業等への支援拡大を図った。また、「TTC」活動および「架け橋」活動の周知を図るため、リーフレットを新たに作成し、地域金融機関や地域企業団体への PR を行った。

平成28年度 TTC他活動実績	
「TTC」活動実績件数	5件
「架け橋」活動実績件数	17件
計	22件



新リーフレット

○研究設備及びバイオリソース情報のワンストップ機能の強化

つくば共用研究施設データベースについては、ホームページのリンク先に対し、新たに作成したバナーを配付した。

つくば生物学資源横断検索システムについては、定期データ更新及び機関名等のページ修正作業を実施した。

ウ. つくばのイノベーションブランドの強化に向けた活動

○企業、投資家等へのアプローチ

つくばイノベーションプラザ開所式

平成28年4月7日、「つくばイノベーションプラザ（TIP）」の開所式を開催した（4月1日開所）。同プラザには、つくば市国際交流協会、TGI、オープンイノベーション拠点「TIA」が入居し、産学官金が出会い、絶え間なく科学技術イノベーションを生む「共創の場」の形成を目的とした活動をスタートさせた。市内外の企業等から60人ほどが参加し、各機関による記念講演の後、懇親会で意見を交わした。



つくばイノベーションプラザ (TIP) 正面入口



主催者挨拶 市原健一 つくば市長



来賓挨拶 楠田幹人 茨城県副知事



TIP 内の TGI、TIA の案内板

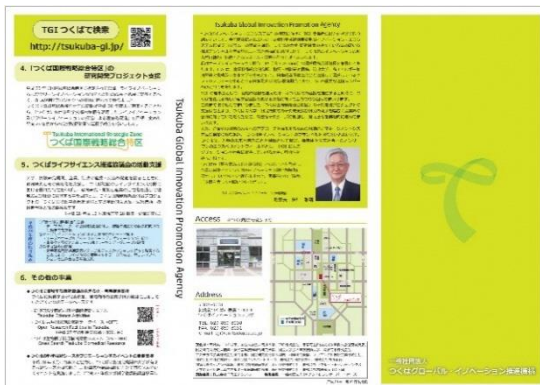


懇親会の様子

エ. つくばのイノベーションブランドを高める情報発信

○情報発信活動

- ・メールマガジン特別号 (9月5日、12月9日)発行
- ・TGIの新パンフレットを作成



- ・平成 28 年 5 月 26 日～27 日に伊勢志摩で開催された G7 主要国首脳会議に伴い、5 月 14 日～17 日に茨城県つくば市のつくば国際会議場で主要 7 カ国科学大臣会合が開催された。会合中は、大臣やプレス、大臣会合関係者、シンポジウム参加者などを対象に、つくばの研究技術力を、会合関係者や海外プレスにもアピールするため、TGI も参加した。筑波大学藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター（ABES）と TIA と三者一体型のブースで展示した。18 日～21 日には、一般来場者を対象とした展示が、多目的ホールで特別展として開催された。

平成 28 年 6 月 1 日	タイ王国のソムキット副首相「生活支援ロボット安全検証センター」視察。
平成 28 年 6 月 3 日	産総研技術移転ベンチャーである株式会社ナノルクスの協力を得て、近赤外線のカラ画像の応用の可能性の幅を広げる検討会をつくばイノベーションプラザで開催。
平成 28 年 8 月 25 日～26 日	「JST フェア 2016」にて TGI 紹介パネル、TTC ポスター、特区の各プロジェクトを紹介（後日 TTC に問合せあり、1 件面談）。
平成 28 年 10 月 11 日	「第 8 回 TIA シンポジウム」にて TGI の活動をポスター紹介。
平成 28 年 10 月 19 日	「2016 筑波銀行ビジネス交流商談会」の支援機関ブースにて TGI の活動及び TTC の紹介。
平成 28 年 11 月 28 日～29 日	「地域イノベーションシンポジウム 2016 in 熊本」にて TGI の活動をパネル紹介。
平成 29 年 2 月 9 日	「第 10 回つくば産産学連携促進市 in アキバ」にて TGI の活動及び TTC をパネル紹介。

オ. つくばのイノベーションブランドを発信する各種イベントの開催・参加

○つくば発イノベーション講演会の開催

産業技術総合研究所、常陽銀行、つくば市と連携し、つくばに集積する研究シーズや事例の発表を通し、つくばの産業力強化・イノベーション創出に繋げるため、以下の講演会を開催した。

・つくば発イノベーション第33回講演会

開催日 : 平成28年9月9日

開催場所: 常陽つくばビル

テーマ : 「サービス産業のための『生産性向上』セミナー」

参加人数: 82名

・つくば発イノベーション第34回講演会

開催日 : 平成29年3月10日

開催場所: つくば市役所

テーマ : 「災害に強いまちをつくる」

参加人数: 58名

○ハイレベルフォーラム (GIANT HIGH LEVEL FORUM) への参加

世界の主要なイノベーション都市から首長や研究拠点の長を集めて開催されるハイレベルフォーラムに参加した。フォーラムにおいて、住川理事長がプレゼンテーションを行い、日本のイノベーション戦略の中でのつくばの貢献や、TGIにおける先導的なイノベーション創出の取り組み等について紹介した。本会議への参加を通じて、イノベーション創出に係るつくば及び日本の先進性を示すことで、世界におけるつくばのプレゼンスの向上に寄与した。

開催日 : 9月25日～27日

開催都市: グルノーブル市 (フランス)

テーマ : Collaborative Creativity

参加者数: 90名 (世界19地域)

つくばの参画機関: 高エネルギー加速器研究機構、産業技術総合研究所、筑波大学、物質・材料研究機構、つくば市、TGI



住川理事長のプレゼンテーションの様子



海外VIPとの意見交換の様子

カ. 人材育成支援

○起業家人材育成

- ・筑波大学主催の起業家育成プログラム「リーンローンチパッド」の広報に協力した。
- ・5月27日～29日に筑波大学を会場として開催された「Start up weekend つくば」への後援、及びプレイベントに協力した。
- ・11月11日～13日につくばイノベーションプラザを会場として開催された「Start up weekend つくば」後援をした。
- ・文部科学省委託事業として筑波大学と協力し、大学・研究機関発ベンチャーと経営人材をマッチングさせるイベント「Talent-Connect(タレントコネクト)&アクセラレーションプログラム」を実施した。

キ. つくばイノベーションプラザの効果的な利用について

○ミニシンポジウム、セミナーの開催

- ・第1回 TGI『ミニシンポ』 近赤外線の可能性を探る（6月3日）（再掲）
産総研技術移転ベンチャーである株式会社ナノルクスの協力を得て、近赤外線のカラー画像の応用の可能性の幅を広げる検討会（ミニシンポジウム）を開催した。このシンポジウムを契機として、同社は大きなビジネスを展開することができた。

参加人数：30名

講演内容：①ナノルクスの技術紹介

株式会社ナノルクス 技術担当取締役 永宗 靖

②近赤外線応用の可能性について

早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授 清水 孝一



主催者挨拶 末広 (TGI 事務局長)



挨拶 祖父江氏
(株式会社ナノルクス代表取締役社長)



技術紹介 永宗氏
(株式会社ナノルクス技術担当取締役)



近赤外線カラーカメラ



講演 清水氏 (早稲田大学教授)



閉会挨拶 鈴木 (TGI 事務局次長)

- Startup Weekend Tsukuba 2016 プレセミナー① (10月10日)
テーマ:「アイデアの伝え方」「アイデアの作り方」
参加人数: 10名

- Startup Weekend Tsukuba 2016 プレセミナー② (10月22日)
テーマ:「会社の形態と資金調達」
参加人数: 10名



○連携強化に向けたオープンスペースの利用促進

- 野村証券株式会社 横山恭一郎氏のインタビュー前の事前打合せ、インタビュー後のフォローアップにオープンスペースを利用（16件）。
- TIA/TLSK 共同ワークショップ企画事務局打ち合わせにオープンスペースを利用（9件）
- TLSK マッチングのための企業との事前打合せに VIP ルームを利用（2件）
- TLSK マッチング後の共同研究契約に向けた TTC 会員と企業との打合せに VIP ルームを利用（3件）
- 浅島 TLSK 会長との TLSK 開催事前打合せにオープンスペースを利用（4件）
- Startup Weekend Tsukuba との打合せにオープンスペースを利用（11件）
- 研究所（JAXA、AIST、NIMS）との連携に向けた意見交換にオープンスペースを利用（概算 104 件：週 2 回×52 週）
- 地域イノベーション・エコシステム構築関係打合せ（概算 156 件：週 3 回×52 週）
- TGI 定例ミーティング（15件）
- いばらきコンテンツコレクション 2（1件）

(2) 特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動

○特区期間の延長

平成 29 年度から平成 32 年度までの特区期間の延長を申請するため、TGI が調整役となり、茨城県とともに各特区プロジェクトリーダーと協議し、新たな計画・指標を作成した。平成 28 年 9 月の地域協議会において、つくば国際戦略総合特区の延長に伴う総合特別区域新計画が承認され、平成 29 年 2 月に特区期間の延長申請を行い、3 月に期間延長の認定を受けた。

○つくば国際戦略総合特区プロジェクトの進捗状況

つくば国際戦略総合特区の各プロジェクトについて、定期的に行われる会議等に参加するなど県と連携して進捗状況を確認しながら支援した。

Project1 次世代がん治療 (BNCT) の開発実用化

平成 27 年度までに開発整備した BNCT 用中性子発生装置に対して、治療に必要な強度の中性子ビームを発生させるための改造、高度化を行った。また、非密封 RI の使用許可申請を行い、許可を得たことにより、施設において小動物を使った生物照射実験が実施できるようになった。さらに、中性子発生施設として施設検査を 12 月に受審し、1 月 6 日付で合格したことにより、施設で BNCT に必要な大強度の中性子を発生できる環境が整い、発生する中性子の測定を実施した結果、本プロジェクトが採用した中性子発生方式で BNCT に要求される中性子の発生を確認した。

Project2 生活支援ロボットの実用化

5 件の生活支援ロボット (ROBOHELPER SASUKE、リショナー Plus、ロボットアシストウォーカー RT.2、ガイダンスロボット LIGHBOT™、SURVEILLANCE ROBOT) が、新たに国際安全規格「ISO13482」認証を取得し、民間企業から販売開始されることで本格的な市場投入の後押しとなった。(これまでの認証件数合計は 12 件)。

Project3 藻類バイオマスエネルギーの実用化

藻類バイオマスエネルギー大規模実証施設 (つくば市栗原地区) において、筑波大学が開発したバック培養システムを用いて、当初目標の生産量を達成した。

Project4 TIA オープンイノベーション拠点

東京大学を参加機関に加え、名称を TIA-nano (つくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点) から TIA に変更し、活動を大きく拡大することになった。TIA 中核 5 機関 (産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構、東京大学) の連携による新たな取り組みとして、「TIA 連携プログラム探索推進事業『かけはし』」が開始され、バイオ、計算物質科学、ビッグデータ解析などの新領域、融合領域を含めて 39 件のテーマが採択 (申請 79 件) された。

<p>Project5 つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発</p> <p>つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）では、マッチングを目的としたニーズ、シーズ、システムの提案を行うピッチ会及び若手研究員の育成交流を目的とした若手交流会など、新規プロジェクトを開始するとともに、会員によるワーキンググループ活動、TTCと連携したマッチング、証券会社と連携したコア技術のインタビューなど様々な活動を行った。これらの活動により、TLSKの魅力が向上し、新たに4機関が入会した。</p>
<p>Project6 核医学検査薬（テクネチウム製剤）の国産化</p> <p>静水圧加圧(HIP)法による高密度 MoO₃ ペレットの安定製造技術の確立を図るとともに、^{99m}Tcと同じ挙動を示す未照射の Re を用いて、分離・抽出・濃縮工程の最適化試験を行い、回収率の向上に見通しを得た。</p>
<p>Project7 革新的ロボット医療機器・医療技術の実用化と世界的拠点形成</p> <p>医療用 HAL については、4月にロボット治療として世界で初めて、公的医療保険の対象となった。8月にはレンタルが開始され、9月から新潟病院と徳島病院で難病患者に対して治療が実施され、12月からは茨城県立医療大学附属病院でも治療を開始した。また、茨城県立医療大学附属病院や筑波大学附属病院等において、脳卒中片麻痺者に対して医療用 HAL を用いた歩行トレーニングを実施し、運動機能改善効果を検証する治験を実施している。（治験実施期間：平成28年9月～平成30年3月）</p>
<p>Project8 戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化</p> <p>前処理システムのうち廃小型家電の解体破碎を行う基本装置の導入及び実証試験や高品位選別システム（プラスチックの選別システム）の実証試験を行った。</p> <p>また、NEDO エネルギー・環境新技術先導プログラムに「動静脈産業連携による循環制御型資源再生技術」が採択を受け、実用化に向けた新たな事業を開始した。</p>

○競争的資金獲得等の支援

筑波大学や研究機関等と連携し、各特区プロジェクトに対して、競争的資金の情報や事業化推進に関わる情報をタイムリーに提供した。総合特別区域における財政支援措置が必要なテーマ/プロジェクトを網羅的に調査し、2つのテーマ・プロジェクトを候補として選択した。

つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発」に係る取組み

○新プロジェクト1：オープンイノベーションへの取組み

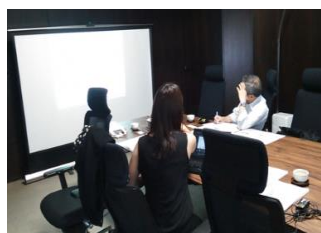
ニーズ、シーズ、システムの提案を簡潔に行うピッチ会（ショートプレゼン）企画、TLSKの会員から発表を募り、新たなマッチングを目指した。

・8月31日開催の第1回のピッチ会では9件（登壇者：医薬基盤・健康・栄養研究所 川原信夫氏、筑波大学 坂本和一氏、産業技術総合研究所 高橋淳子氏、近井学氏、物質・材料研究機構 吉川千晶氏、エーザイ株式会社 乗嶺吉彦氏、国際科学振興財団 赤池敏宏氏）の発表が第25回のTLSKの参加メンバーに対して行われた。そのうち3件は共同研究に関する問い合わせがあり、更に1件は共同研究契約へ発展した。

・3月1日開催の第2回のピッチ会では5件（登壇者：筑波大学 林悠氏、鈴木石根氏、櫻井徹也氏、農業・食品産業総合技術研究機構 高野誠氏、アステラス製薬株式会社 棚橋正幸氏）の発表が第27回のTLSKの参加メンバーに対して行われた。



第1回ピッチ会の様子



共同研究に係る打合せ



第2回ピッチ会の様子

○新プロジェクト2：TLSK 若手交流会（産業技術総合研究所との共催）

ライフサイエンス領域の若手研究員の育成と交流を兼ねて、若手交流会を企画・開催した。つくばの様々な研究所の若手研究者をグループ分け（機関外の研究者とメンバーを構成）した後、与えられた高度な課題に対して討議を行い、グループごとの発表を行った。若手研究者の横のつながり形成や、次世代の共同研究テーマの発掘に繋がった。第1回の若手交流会は9月23日に開催し、33名が参加し、11月18日に開催した第2回では30名が参加した。



若手交流会の様子

○新プロジェクト3：TLSK ワーキングによるテーマ創出提案

TLSK における新規テーマ創出方法について、会員によるワーキングを開始した。

- ・11月6日 会員への事前アンケート実施
- ・12月6日 第26回 TLSK で提案・承認
- ・2月3日 第1回ワーキングの開催

○新プロジェクト4：TTC と連携 TLSK マッチング

TLSK の会員のシーズと企業とのマッチングを実施した。11件実施し、内2件が共同研究契約に至った。

○TLSK 会員勧誘活動

新たなプロジェクトの開始とともに、TLSK のさらなる魅力を付加し、会員勧誘活動を行った。平成28年度は新たに、株式会社日立製作所、日本ハム株式会社中央研究所、東京大学大学院新領域創成科学研究科、株式会社 TNP パートナーズの4社・機関の入会があった。

○特区 PJ 間の交流（TIA とつくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発）

特区プロジェクト Project4 の「TIA」と Project5 の「つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発」の事務局が連携して、つくば地域におけるライフイノベーションのための新たな連携基盤の構築を目指して、平成29年3月1日に文部科学省研究交流センターにて第1回 TIA-TLSK 共同ワークショップを開催した。

基調講演：AIST（舘野浩章主任研究員）、NIMS（中西淳グループリーダー、陳国平主任研究者）、筑波大学（大石基講師、佐藤孝明特命教授、磯田博子教授）、NARO（瀬筒秀樹ユニット長、淵本大一郎主任研究員）

セッション①：プレジジョン・メディシンの実現のために

セッション②：医療用農畜産物の生産基盤技術

セッション③：新しい診断・治療技術



開会の挨拶 浅島氏
(TLSK 会長)



閉会の挨拶 金保氏
(筑波大学国際産学連携本部本部長)



懇親会の挨拶 石野氏
(筑波大学副学長)

○特区プロジェクト等が実施する会議等の運営支援

- ・つくばライフサイエンス推進協議会 4回（5月23日、8月31日、12月7日、3月1日）
- ・つくば生物医学資源コンソーシアム運営委員会 3回（5月9日、10月11日、2月1日）
- ・核医学検査薬国産化プロジェクト会合 2回（5月31日、11月29日）

○プロジェクトに関する広報活動

行政機関等が主催する展示会やシンポジウム等に参加し、特区プロジェクトに関する広報活動を行った。

- ・G7 科学技術大臣会合特別展（5月14日～17日、つくば国際会議場）（再掲）
- ・JST フェア 2016（8月25日～26日、東京ビッグサイト）（再掲）
- ・第8回 TIA シンポジウム（10月11日、イイノホール）（再掲）
- ・2016 筑波銀行ビジネス交流商談会（10月19日、つくば国際会議場）（再掲）
- ・つくばビジネスフェア 2017（1月31日、つくば国際会議場）
- ・SAT つくばテクノロジーショーケース（1月31日、つくば国際会議場）
- ・第12回つくばビジネスマッチング会（2月7日、産総研臨海副都心センター）
- ・第10回つくば産産学連携促進市 in アキバ（2月9日、秋葉原ダイビル）（再掲）
- ・nano tech 2017（2月15日～17日、東京ビッグサイト）

(3) 筑波研究学園都市長期ビジョン検討会議の運営

「つくば市科学技術振興指針（第2期）」の策定に関し、長期的な観点から筑波研究学園都市の課題と進むべき方向についての提言を行うため、つくば市長はじめ市内の大学、研究機関、企業等の有識者で構成する会議で検討した。TGIは事務局として検討会議の運営を行った。

- 第1回検討会議 日時：平成28年10月12日
場所：筑波大学高細精医療イノベーション棟206室
- 第2回検討会議 日時：平成28年11月17日
場所：筑波大学高細精医療イノベーション棟206室
- 第3回検討会議 日時：平成28年12月26日
場所：筑波大学高細精医療イノベーション棟206室

3. 会員の勧誘活動の推進

新たに2機関（野村證券株式会社、株式会社リクルートホールディングス）が入会し、1機関が退会し、正会員は20機関・社となった。

4. TGIの運営に関する事項

TGIの事業全般の企画立案、計画の策定、執行等のため以下のとおり会議等（メール会議含む）を開催した。

○総会の開催

- 6月30日 定時総会
- 7月1日 第1回臨時総会

○理事会

- 5月27日 第1回通常理事会
- 6月30日 第1回臨時理事会
- 9月26日 第2回臨時理事会
- 10月13日 第2回通常理事会
- 12月6日 第3回臨時理事会
- 3月27日 第3回通常理事会
- 3月31日 第4回臨時理事会

○経営会議

5月11日 第1回経営会議

7月1日 第2回経営会議

3月27日 第3回経営会議